

序

当館は昨年創立30年を迎えました。創立当初は、戦災の焦土の中から文化財の残欠を収集し、瓦葺の民家を借りうけ、あるいはトタン葺の小さな建物を作って陳列されました。その後、収集の範囲を県外にもひろげたため年々資料がふえていきました。一方、資料の増加とともになって敷地や建物もたびたび移転拡張され、今日のように外観内容ともに創立当時とは比較にならぬほど発展しました。これも関係者の努力はもとより、一般県民の多くの方々のご協力の賜物と深く感謝いたしております。

当館の過去をふりかえってみると、戦後十数年間は、沖縄の文化財の収集、保存、公開に重点がおかされました。それとともに、日本本土や海外でたびたび展示会を催して、沖縄の文化を紹介する等、博物館の普及活動の面にも相当力が注がれてきました。

ところが、戦後無一物から今日を築くまでには、数少ない職員ではこのような業務に追われて、調査研究の面では充分な活動ができませんでした。それでも、十年程前から学芸員の努力により、それぞれのテーマで調査研究にもはげみ、その結果を館報で発表してきました。そして、一昨年からそれをさらに、学術誌としても一層充実させるべく、紀要として第1号を発刊しました。そのようなわけで、1、2号につづいて本3号もそれぞれの分野でユニークな研究成果が盛られております。学芸員の熱意をくみ取っていただければ幸いに思います。

さらに、今回は3.0周年の記念講演をしていただいた琉球大学の池原貞雄教授と友寄英一郎教授のご講演も掲載しました。両教授のご講演は沖縄の自然や歴史について、学術的に重要であるばかりでなく、沖縄の博物館の将来のためにも非常に有益でありますので、多くの方々に読んでいただきたいと思います。

本誌を出すにあたって、両先生に感謝を申し上げるとともに、今後とも皆様方の一層のご指導とご鞭撻を賜わるようお願い申し上げる次第であります。

昭和52年3月10日

沖縄県立博物館長

外間正幸